

『地域と子ども学』創刊の辞

学校法人白梅学園理事長

小松隆二

白梅学園は、子どもおよび子ども学、そして地域および地域学を大切にしてきた。どちらも、二一世紀には極めて重視される分野・領域であり、テーマである。ただ学問としては、どちらも理論、方法、体系の面で未解決な課題も少なくなく、未だに確立したとはいえない。とはいえ、二つが重要な分野やテーマであることには変わりはない。

そのような認識の下で、白梅学園としては、昨二〇〇八年度に東京都東村山市から「子育て総合支援センター」の事業（「こころの森」の運営等）を委託されたのを機に、地域を足場に子ども学を究め、深める機関誌を刊行する計画を立てていた。子ども学と地域学の重要性を認識しつつ、子ども（学）について地域を通して考察すること、逆に地域（学）について子ども

(学)を通して考察することが、一つの挑戦として意味があると考えたからである。

ことに東村山市における子育て支援の実践は、市から白梅学園が委託をうけ、その上で市とNPO(市民)、そして白梅学園の三者が協働・共創して子育ておよびその支援に挑戦するもので、画期的な意味をもっている。それは、たんに東村山という一つのまち・地域における実践のみで終わらせずに、その活動や成果について本誌等を通して全国に発信する責任や意義のある事業である。それに対して、全国から批判や意見を寄せていただくという形でフィードバックを行いあうことができれば、子育て支援事業の展開にとつても、また子ども学および地域学の展開にとつてもきわめて有益と考えている。子育て支援事業に際しても、たんに現場における実践のみで満足するのではなく、調査、研究、講演会、シンポジウム、交流会、相談・カウンセリング、専門機関誌の刊行など多様な活動を企画、実行し、総合的に前進をはかる力をもっているのが大学・学校法人の特色である。そのような対応が、全体として活動・事業をより良い水準や内容に、また子育ての成果や市民の満足度の向上に、ひいては子ども学の発展にも結びついていくように思う。そのような役割を担うことが本誌刊行の狙いでもある。

皆様のご支援・ご指導をいただければ幸いです。